

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 2 年 9 月 2 3 日 NO.6

見附市学校給食センター



「ニセ科学」を知っていますか？

教育センター嘱託指導主事 早田 秀夫

今年、未曾有のコロナ禍により、教育活動にも大きな負担がかかっています。そんな中、子どもたちのために精一杯のご努力をされている見附市の教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、今回は、ニセ科学に焦点を当ててみたいと思います。

ニセ科学とは、科学の専門家から見て科学ではないのに、「科学っぽい装いをしている」又は「科学のように見える」にもかかわらず、とても科学とは呼べないものを指します。(左巻健男著「ニセ科学を見抜くセンス」)

例えば、道徳の授業において、多くの小学校で教材として使われた有名な「ニセ科学」がありました。2000年代を中心に広まった、「水からの伝言」です。その内容とは、「ありがとう」「愛」などの言葉を見せた水を凍らせると整った樹枝状の結晶ができ、「ばかやろう」「殺す」といった言葉を見せると崩れた結晶になる。そんな話を写真とともに紹介した本が、感動を呼ぶ”科学物語”として話題になったというものです。

この中でのニセ科学は、「言葉固有

の”波動”が水に情報を転写する」という解説です。

私にとって“波動”といえ、あの宇宙戦艦ヤマトの波動砲や、原子内の電子の軌道配置を求める波動方程式(難しかったなあ!)くらいですが…。

解説によれば、この“波動”は物理学用語の「波動」ではなく、あらゆるものが発している霊気やオーラののようなもの、あるいは現代科学では正体不明の”エネルギー”のことだそうです。当然、科学ではありません。

「子どもたちの心に響く教材や授業を」という教師の思いはよく分かります。しかし、そのために、科学的な正しさを無視してもかまわないということは、絶対あってはならないと思います。どうか先生方も、「ニセ科学」にご注意を！



巻頭写真に寄せて ～ 見附市学校給食センター ～

— 徹底した衛生管理による「安全・安心な給食」の提供 —

◇8月下旬に2学期が始まり、美味しい給食も再開された。この給食は、2年前(平成30年8月)に完成した「見附市学校給食センター」(下鳥町)で、市内の小・中・特別支援学校の子どもたち・教職員、全員分が作られている。9月8日(火)の午前10時過ぎに撮影に行った。(表紙写真) 配送室前には、すでに給食運搬車が整列し、積み込み作業も行われていた。しばらくすると、車は次々に出発して行った。(右上写真: その下センター内写真3枚は、パンフから掲載)

◇この給食センターは、「徹底した安全対策」などの特徴がある。床に水をまかないドライ方式の他、洗浄後の食材や食器等を扱う非汚染区域と、食器や食材の洗浄と、洗浄前の食材の受け入れや保管を行う汚染区域とを分けるなど、徹底した衛生管理の下で給食が作られている。遮音や調理臭の抑制など周辺環境にも努めている。

そして、他に類を見ない特徴が、給食センター業務で稼働していない時間帯の施設を、民間業者が有料で使用するという効率的な運営方法である。これらに加え、見附産の食材にこだわり、食育や地消地産を推進しつつ「美味しく、栄養バランスのとれた給食」を提供していることが大きな特徴である。米や牛乳、野菜等、地元食材が多く使われた安全・安心な給食、美味しいはずである。



炊飯室で炊飯



加熱調理室



洗浄室

コラム ・・新潟地区に「学校給食センター」ができる素地はあった!?!..

◇撮影に行き、立派な給食センターを眺めながら、ふと「なぜ、ここに給食センターが建てられたのか。」との思いをもった。そこで、「給食センターが、どうして下鳥町に作られたのか。」を担当者に尋ねた。「ここは市が所有する土地(ため池)であった。これまで給食は、市内の4か所の調理場で作ってきたのだが、建設の間、どの調理場も止めるわけにはいかなかった。」とのことだった。「なるほど」と思いながらも、米、牛乳、野菜等、地消地産にこだわる見附市の給食である。新潟地区に作られたのは、さらに、理由があるに違いないと思えた。そこで、「見附市史」で各学校の給食の始まりを調べてみた。名木野小学校に「昭和26年からミルクだけの給食を実施…」とあったが、他は昭和30年代に入って開始されていた。その中で、新潟中学校が「昭和32年12月9日から新潟小学校と共同で始めた…」とあり、それに続き「…農業実習用の実習田は、芝野地区と下鳥地区に一反ずつあった。11月の収穫には収穫感謝祭をやり、赤飯や大福もちを作り、食べて祝った。しかし、この実習田も昭和40年の農業科目の廃止とともに返上した。梅田地区などにあった一反弱の実習畑には、なす・きゅうり・かぼちゃ・トマト・じゃがいもなどの野菜を栽培していた。これは見附中学校へ統合(昭和43年4月)するまで続いた。」の記述があった。中学生が米や野菜を栽培していたのである。正に地消地産を目指す「見附市の学校給食」の原点は、これではないか。

◇ではなぜ、新潟中学校で農業実習が行われたのか。それは、昭和22年に出された学習指導要領一般編(試案)に、「中学校の教科(科目)に『職業』(農業・商業・水産・工業・家庭)があり、この中から学習をする。生徒がどの科目を選択するかについては、将来の生活について十分考えるよう指導して決定させたい。」とあった。新潟地区は農業が基盤である。ほとんどの生徒が農業を選択したことであろう。◇また、見附に昭和23年6月、県立加茂農林高等学校見附分校が、現在の中央公民館の場所に創立をされた。この見附分校は、新潟中学校が見附中学校へ統合した昭和43年4月から校舎あとに移転をしたのである。高校の農業実習が、引き続きここで行われた。「学校給食センター」が、この場所で美味しい地元産食材を中心にして作られるのは、上記のような土壌があったからだと考える。

◇圃場整備が繰り返され、美田と化した現在の姿から当時の様子は想像し難いが、農業や食を大切にしてきた先人たちがいて、今、見附の子どもたちが美味しい給食を頂いているのではないだろうか。(こ)

4時から夢塾 「資質・能力をはぐくむために…」

第12回「4時から夢塾」(示範授業)を9月2日(水)、新潟大学附属長岡小学校の平野秀穂先生から、名木野小の4年国語の詩の授業で、指導を頂いた。



1 授業の主眼 詩の工夫や気に入った表現とその理由について、ワークシートにまとめ、仲間と検討する中で、対比的な表現や語り手の心情を表す表現が、構成に基づいていることを理解し、他の詩も考えたいと意欲を高める。

2 授業の流れ

(1) T (宿題として出ていた左記の) 詩の題名は何ですか。

C 教えない C うみ C 聞いている C するめ

T どうして「するめ」って考えたの? C 調べた…

T 調べたの?素晴らしいね

(2) T 『ふしぎ』を読んで、気が付いたことは何ですか。

ふしぎ 金子 みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くことが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。

・各自、2回音読する。

◎工夫されているところやいいなと思ったところはどこか。

(各自がワークシートに書き、その後、近くの人と話し合う)

C (行間があるのに) 続いている

C 順番が逆さまになっている

C 雨は白のイメージなのに、なぜ銀なのか

C 葉は青ではなく緑色で、かいこは白い…

T 黒い雲と雨の銀(白)、葉の色とかいこの白がはんたい

C 色と様子が工夫されている

C くり返されている(わたしはふしぎでたまらない)

C (文末の)「ことが」もそう

C 「だれにきいてもわらってて…」のところがいい

T ここは人の気持ちだね…

T **みんなが見つけたのは次の五つです**(板書)

1 くり返し 2 はんたい 3 色 4 様子 5 人の気持ち

(*はんたいとは、「対比的な表現」のこと)

まど みちお
とうとう
やじるしになって
きいている
うみは
あちらですかと…



(3) T 『蓮と鶏』の最後のところの□に、何が入ると思いますか。

蓮と鶏 (にわとり) 金子 みすゞ

(「蓮」と「ひよこ」の写真を示しながら)

泥のなかから 蓮 (はす) が咲く。

それをするのは 蓮 (はす) じゃない。

卵のなかから 鶏 (とり) がでる。

それをするのは 鶏 (とり) じゃない。

それに私は 気がついた。

□

T □に何が入るか考えてください。

*「自分なりに適した表現を加えて、構成に基づいて理由を述べる」ことができる」を、Tは願ったのだが…

→時間が短く、難しかったようで、ほとんどの子が書けなかった。

*□に「それをするのは 私じゃない。」が入ることを伝えた後、T Cの頑張りを褒め授業を終えた。



ミニ講座 「資質・能力をはぐくむために～どのような授業を目指しているか～」

1 平野先生の関心の変化

○単元づくり・先輩に『単元作りを勉強しなさい』と言われたが、よくわからずに模索しながらやっていると「ゴール」を設定してやることだと思えるようになった。また、どういう風にするのか？と悩んでいると「言語活動でやる」と教わった。



○大学院での学び・「言語活動のバリエーションを増やしたい」との思いから、学ぶことを決めた。

・「物語」とは何なのか。・読みの差は何から生まれるのか。・この子はどう読みを変えていくのか。

○今、「資質・能力をはぐくむこと」が言われているが・勉強ということ以上に、小学校の前の幼児期やその前。また、小学校の後の中学校に、上手く接続していくことが大事である。

2 今回の授業・・・一時間のみの飛び込み授業・「詩」でやろう。

・『金子みすゞ』の作品を選んだのは、①リズムがはっきりしている。②形式を踏まえているから。

○抽出児について・全員を一度に見ることはできないので、指標となる「みとり」やすい二名を決めた。

A児・思考傾向のバランスが良い。 B児・一点突破型の子ども（ここにこう書いている）

○授業を振り返る・「ふしぎ」で五つのことが出たが、人の気持ちが出なくてもそのまま進めるつもりでいた。子どもの反応として、白と黒が対比的（はんたい）。くり返している。色で進めた。

・「ふしぎ」は定型なので、パターンとしてとらえられればよいと考えた。「蓮と鶏」で、「□に何が入るかな」は子どもの考えとして出ると思ったのだが・・・⇒反省の多い授業だった。

○皆さんは授業後に・「今日の学びは○○君のスイッチを入れられたか」とか、□□君が「これ違うよ」△△さんが「でもね・・・」というような話合いが行われたか等、振り返っていると思う。

・コロナでの臨時休校後、説明のみの動画になる。「塾の先生の方が分かり良い」の子どもたちの声がある。⇒学校教育は「子どもとの人間的な関わりを大切にしながら、人間性の成長をはぐくんでいる。」

3 附属長岡幼小中の研究（文科省の指定研究3年目）・・・私たちの目指す「総合的な学び」

○「社会的資質・能力」「実践的資質・能力」「認知的資質・能力」のすべてを備えた『総合的な学び』

・はぐくみたい資質・能力の最終形を職員で共有⇒その単元ではぐくみたい資質・能力を選択（具体的に言うとうどうなの？）⇒単元や本時の主眼を設定⇒実践化（授業前のやりとり、振り返りシート）



4 資質・能力をはぐくむ授業に有効な手立て・・・次の4点である

○子どもの願いや思いに基づいた表現活動を含む単元構成。○既存の意味の問い直しを含む単元構成。

○自分の立場や見方の自覚を促す教材や資料の提示。○子どもの話をよく聞く。

<参加者の声> ・授業後に、子どもたちが目を輝かせ詩に触れたり、平野先生に関わったりする姿を見て、子どもたちが「充実した時間を過ごせたのだ。」とこの姿で十分に理解できた。

・授業前の雰囲気作り、一つ目の詩で見つけた工夫を二つ目の詩に応用させるなど、大変勉強になった。

・子どもが主体的に学ぼうとする学習課題の作り方を教えて頂いた。自校の研修課題にぴったりだった。

・子どもに揺さぶりをかけて、◎を作り出していくところで、子どもが関わりを深めながら解決していた。

・詩の学習の展開に新しい引き出しが増えた。「□の中に何が入るかな。」と、授業を進めてみようと思った。

・人間的な成長という言葉に、ほっとさせられた。成長を支え、一緒に成長できる先生を目指したいです！

科学教育部



《今月の1枚》 ツユクサ
市民の森や大平森林公園の道端で
たくさん咲いています♪

【夏休み作品展～キラリと工夫が光る～】

今年度の夏休みは例年より短く、児童・生徒も作品を作成するのに苦労したのではないかと思います。そういった状況下でも、各校から選りすぐりの作品がそろいました。小学校 138 作品、中学校 46 作品の計 184 作品です。9月 26 日・27 日に「ネーブルみつけ」を会場にして作品が展示されます。児童・生徒にとって、他校の作品を見ることはよい刺激になると思います。多くの方々のお観覧をお待ちしています。

<p>「見附市児童生徒夏休み作品展」 会 場：ネーブルみつけ</p>	<p>9月 26 日 (土) ～27 日 (日) 9:30～16:30</p>	<p>市内 184 作品 小学校 138 作品 中学校 46 作品</p>
--	---	---

【科学研究発表会～科学の探究心が燃え上がる～】

各校の先生方からご指導いただき、今年度も見附市児童生徒科学研究発表会を開催することができます。ありがとうございます。「小学校 1・2 年生部会 6 作品」「小学校 3・4 年生部会 9 作品」「小学校 5・6 年生部会 10 作品」「中学校 7 作品」の応募がありました。科学を探究する心を育て、高めていける場となることを願っています。

<p>「見附市児童生徒科学研究発表会」 会 場：見附市中央公民館</p>	<p>10月 2 日 (金) 14:05～16:20</p>	<p>小学校 1・2 年生 6 作品 小学校 3・4 年生 9 作品 小学校 5・6 年生 10 作品 中学校 7 作品</p>
--	------------------------------------	--

《中秋の名月～一年でもっとも美しい月～》

秋も少しずつ本格化してきました。秋になるとお月見のイメージがあります。さて、今年の中秋の名月は 10 月 1 日となっていますが、満月になるのは、翌日の 10 月 2 日です。中秋の名月は元々、旧暦の秋の真ん中の 8 月 15 日頃です。今では、「9 月 7 日から 10 月 8 日の間で、満月が出る日」を十五夜といいます。暦の関係で今年は 1 日、満月と中秋の名月がずれています。秋の七草である「ススキ」を添えて、お月見するのが風習になっています。秋の涼しい夜に、空が澄んで・・・今年の中秋の名月である 10 月 1 日も空が澄んできれいな月が見られると良いですね♪

今年の中秋の名月は 10 月 1 日♪





科学の小話

今月は当センターの兼任所員の
「西中学校 下村雅彦教諭」に
ご寄稿いただきました！

理科室・準備室大清掃のススメ

理科室・準備室の大掃除&大整理。授業日は気付いたことをほんの少しずつしかできませんが、夏休みに一気に加速。年代物や掘り出し物が見つかり始めると面白くなってきて、結構熱中してしまいます。関連付いたものを近くに収納し、分野別に色分けした表示をつけて整理。ついでに台帳とも突き合わせて、写真を撮り、ラベルも直し……。

すると、「なんでこんなものがたくさん?」「これは全然足りない!」という発見の連続。無駄なものと本当に必要なものとが明確になり、その後の購入計画に大きく影響。コストパフォーマンス向上間違いなし!しかも使い勝手もよくなります。でもあまりにマニアックな自分仕様の準備室にするのは厳禁。自分が転勤した後で後任の方が地獄を見ます。誰にでもわかりやすいように……ユニバーサルデザイン(??)の心が肝心。

理科室も同じようなスタンスで整理していきますが、授業で使う機会は少なくとも、もっと触れさせてあげたいなあと思うような器具や標本はあえて目立つところに収納します。まんまとこちらの意図に乗かって生徒が興味を示して触りたがります。休み時間に「いいよ」と声をかけると嬉々として棚から出して触れます。授業の内容はよく覚えていなくても、こういうことは子どもの心の中に結構残るものです。一見どうでもいいような体験や経験でも、心のどこかに引っかかって、後々何かに役立つことがあるかもしれません(役に立てようなんて欲張らないほうが良いと思いますが)。

西中には物理化学系と生物地学系の2つの理科室があります。その基本線を崩さないようにしながらも、2部屋とも黒板周りの用具入れ、教卓の引き出し、流しの下棚は極力同じ仕様にしました。当然のことながら、生徒が物を探す無駄な時間が減りました。理科室に来ると、指示がなくても器具の準備をする生徒が少しずつ増え、準備片付けの効率が良くなり、生徒にさせたい実習にじっくりと時間をかけられるようになります。失敗しても考えてやり直せる時間も生み出せるようになり、狙った結果を得られることが増えます。学力アップ間違いなし!授業構想、指導案はもちろん大切ですが、常に目にするものや触れるものをきちんとしておくことが、子どもの力を高めるためにとても大切です。

それに、何よりも、私の授業準備の時間の無駄が減りました。これが一番大事かも。取り掛かりは気が重いかもかもしれませんが、大掃除&大整理をオススメします。

(決意) 棚の上には何も置かないぞ! ➡



透明骨格標本づくり



息子の『夏休みの理科』につきあって7年目。毎年科学研究と並行して、生物、化石、岩石など、何かしらの標本を一緒に作っています（いや、手伝っているということにしておきましょう）。一昨年からは身近な地域の生物分布・生態調査から発展しての『骨格透明標本』。きっかけは、私の部屋にあった透明骨格標本のきれいな本を息子が見つけたこと。採集・飼育している生き物が死ぬと作ります。

体はほぼ無色透明、着色された骨格や軟骨が透けて見えます。骨格だけの標本のようにばらけてしまわず、体の形のまま骨格を観察できます。インテリア(?)としても美しい。酵素によってタンパク質が徐々に透き通っていく過程を見ているのも楽しく熱中します。



ただし、とても時間がかかります。そして何よりも薬品代が高い!だから、我が家ではお泊まり付きの家族全員でのお出かけや、お高いところでの外食は一切ないのであります。せいぜい、今年は感染症対策で断念した「ひらめき☆ときめきサイエンス」の県外大学講座や、日帰りで糸魚川(市振)に恐竜化石探しに息子を連れていくことくらいでしょうか。



こんな感性も素敵

▲トウキョウダルマガエル

〔内臓を取り除かなかった
ので、背骨が見えにくい〕

いつも着替えがノロかった息子(小1の時)が、体育でグラウンドになかなか出てこないのを、担任が探しに行ったら、「玄関のすぐ脇で列をなすアリをじっと見て(観察して)いた。」と、保護者面談で



話を聞いたときは平謝り。目を引く物に、つつい気を取られる私の特性とそっくりな息子。集団での行動としてはまずい部分ではありますが...

▲虫取り名人

徒歩通学だった小学校の時にはしょっちゅう道草(虫、魚、サリガニ、蜘蛛の巣、空の雲、つららなどなど)をくって帰宅が遅くなることも。



便利で、部屋の中(というか手元でピコピコ?)でいろいろなことが完結できること(つもり?)の多い世の中です。戸口から戸口への自動車送迎で、自転車や歩く速さでしか見えないものが見えなくなっている世の中です。そんな中、小さな命の美しさ、あたたかさ、不思議さに気づいて目を向けることができる「感性」は素敵です。その「感性」はずっと持ち続けて、心豊かな大人になることを願っています。行動の遅さ、つつい寄り道してしまう遅さゆえに磨けた感性なのかも。効率の良さや便利さに偏りすぎて失っているものに気づかせてくれる息子はありがたい存在です。自分の理科の授業でもそういう「感性」を大切にできたら...

(西中学校 下村雅彦)